

指笛楽友会通信 No 4 5号

野も山も緑を明るく輝かせています。日本を震撼させた「東日本大震災」から2カ月余も過ぎましたが皆さまお心は落ち着きましたでしょうか。音楽は心身を落ち着かせるといいます。指一本の指笛音楽はどこで流れ人を慰め癒しているのでしょうか。皆さま頑張りましょう・・・・・・・・。

故田村大三先生の召天1年記念会

2011年4月17日 銀座三笠会館にて田村先生を偲ぶ記念の会が開かれました。静海先生と石原家のご家族、故田村先生と特にお付き合いの長かった方々、楽友会会員17名の出席で故人を偲びひとときを過ごしました。中央のテーブルに飾られた先生の写真私達門下生に対し期待と励ましを込めたようににこやかな笑顔でした。

《静海先生のお話》

皆さまの過大なご支援があって田村大三は97歳の人生を全うできたのです。大三のことを思い出しますと、皆さまお一人お一人と語り合いたい心境です。

私の信念をかけて申し上げたいのは「田村大三は生きている！」2010年4月24日あの一日の感動は胸に焼きつき忘れられません。ですから毎日朝に夕に私の心の内と出来ごとを大三に話しています。97歳の田村大三の人生は終わったとは思っていません。その命は今も繋げられ使命と共に生きていると思うのです。あの感動の75周年指笛発表会に祝福の源を約束された神は定められた日に、その約束を受ける器に生かされ使命と共に永遠のものとされました。

又 この度アメリカ在住の娘洋美、恵の家族が出席出来なかった事は皆さまに申し訳ない思いでいます。海外では福島原発の放射能を大きく取り沙汰されていて来日出来ませんでした。本人達も残念な思いの中皆さまに宜しくとのこととございます。大三は家族には常に危ない事に注意を与える人でしたから、霊がその様に導いたと思います。

練馬の懐かしい「指笛の家」にあらゆる事情で住む事が許されずに去ったことは、指笛音楽を愛して下さり訪れてくださった皆さまに心からお詫び申し上げます。一年が過ぎた今、大三に語りかけていると榛名の自然の中に移り住み換えたことは間違っていないと思えるようになりました。

この春桜が満開の時にマリア館の中庭でお花見をしました。桜だけでなく色とりどりの花が咲き、職員の方々は手作りだんごで盛り上げてくれて、本当に楽しいひと時を過ごしました。「こんな良いひと時が持てるようになってよかったね」と大三は言ってくれると思います。指笛音楽をなにより大切に思い、家族を愛した田村大三でしたから・・・・・・・・。

「善意の輪を広げよう」

善意銀行友の会会長磯野輝夫氏のお話

東京善意銀行は東京都社会福祉協議会の分室にありました。その当時善意銀行に色々な物資が集まり各所の施設に配分していたが、あまりにも物が多く集まり配分しきれない程になりました。

そこで昭和47年「善意銀行友の会」を発足、八重洲地下街でバザーを開くことにしました。

バザーで物を売るだけでなくお客様に楽しんでもらおうとアトラクションのコーナーを作りました。当時、善意銀行の副会長であった田村大三先生は芸能関係に声をかけそのコーナーで指笛音楽演奏をして盛り上げました。3日間で235万円も集まり東京都へ寄付したのです。

田村先生は昭和51年東京善意銀行友の会の会長に就任、善意銀行友の会として昭和52年に田村先生の提案でチャリティーコンサートの計画を立てました。指笛の演奏と立川澄人氏ほか有名芸能人に協力を求めて九段会館で開いたチャリティーコンサートが第1回目で大成功でした。以来2回目東条会館、3回目安田生命ホール（新宿）と会を重ねましたが第4回目は会場費を節約するため会場選びに苦慮していました。

その時も友の会の会長として田村先生は「奉仕の精神」とバイタリティーで三井不動産の元社長江戸英雄氏に会い「善意の輪を広げよう」のボランティア活動の趣旨を説明し相談したところ、それは大変良い事だと賛同してもらい、新宿三井ビル前のゴーゴー広場を無償で借りることが出来ました。（通信No42で紹介）

「善意の輪を広げよう」のキャッチフレーズのチャリティーコンサートは田村先生のアイデアで毎年開かれ今年で37回目になります。

東京リサーチ吹奏楽団元指揮者上原圭詞氏のお話

田村大三先生と私は音楽を通して35年もの長いお付き合いでした。

当時、オーケストラの指揮をしていた私はバンドの腕を磨くには「他人の力」を借りた方が良くと考え、管楽器に合う演奏は何がよいか、ハーモニカ、尺八などと思案している時、奇跡的にふと頭に浮かんだのが指笛でありました。私は指笛の本質も分からず、また指笛を知らない楽団員もおり、演奏費の予算、練習方法も未知の中、色々不安を抱えて中野区の田村先生宅に電話をしました。電話の向こうの田村先生は明るく力強い声で私に対応してくださり、私の申し出を快く承諾していただきました。

共演も決まり定期演奏会2カ月前から練習に入りました。透き通った高音、深い音、一本の筋のように表現するお腹から出てくる音は素晴らしく、吹奏楽の楽団員も大変勉

強になりました。

それから演奏会を続けていくうち、田村先生から「吹奏楽と指笛音楽の演奏」でボランティア活動をしなさいかと誘いが有り、ゴーゴー広場でのチャリティーコンサートが実現しました。以来、指笛と共演「善意の輪を広げよう」のこのコンサートは新宿三井ビル前のゴーゴー広場で今に続いているのです。

(2011年4月17日「故田村先生召天1年記念会」にお話しいただいた一部のテープを起稿しました)

文責 武井



榛名に来て生きる喜び

田村 静海

皆さまと共に生活するようになってから5カ月が経ちました。

「神様！私はこんなに恵まれていいのでしょうか？こんなに幸せでいいのでしょうか？」この思いは私の真実です。

そして、日々感謝の気持ちが湧いてくるのは、榛名の山々に囲まれた清らかな空気、朝の山並み、夕ぐれの色は日々色を変えて美しく心が癒されます。山から湧き出る水の流れ、その音は、大地の豊かな水を教え、この様な自然の恵みが心を動かし、生活のすべてに感謝しないではられません。充実した満足を感じています。

また、生活している現実の中で思いがけない奇遇に、幾つもお会いがあります。そんな時の喜びの感動は私の心を生きいきとさせてくれます。

一気にここまで書きましたが、ふと私は「生きている」という尊さに新しい感動を覚えふるえています。自ら生きようとしても生きられるものではない「今、生きているのが尊いのだ」と知らずに涙があふれ出て来ます。

ある方から「今の心境を『こかげ』に投稿してくださいよ」との声に一瞬ためらいましたが、榛名に来て心が豊かで幸せを感じている私は、まもなく「ハイ！」の返事。それは今の気持ちを素直に書けると思ったからです。文の上手下手は別にして、「今生かされていること」を書こうと思いました。

昨年4月24日に、主人は97歳で神のみ手に渡されました。その日のことは今でも鮮明に覚えています。主治医の先生は私に「ご主人は、明日または、今日中もしくは、一時間後。そんな所にきています。」と言った。私は夢中になって、そんなことはない。私が毎日主人にやっていることをすれば主人はきっと楽になるのだから。私がさすっつていけばまた元気になる。と確信しながら、まっ白の顔になっている主人に「大丈夫ね、大丈夫ね、楽になる？楽になった？」と話しかけたのでした。

手の平から出てくる私の心の力が、主人の命に繋がってゆくことを信じ、祈りながら柔らかくさすっつていけると、白い顔が少しピンク色に変わってきました。二人の看護師さんは様子を見ながら「私達の処置より奥様の手が一番良さそうに安心されています。私達はここでしっかり見ていますから。」と私の横に椅子を近づけてくれるのです。

しかし、私が座ると主人の顔の様子がわからないので、立ったまま、柔らかくさすり続けました。主人は気持ち良さそうに幼児が眠りにつく時のような安らかな顔で、目を閉じてはすぐ開いて私の顔を覗くように、また目を閉じ、目を開ける。何回も私の顔を見ていました。

主人は眠くなっているのだと思い「眠くなったのね、寝ましようね」とお母さんのような気持ちになってしまうのでした。とその時、不思議に看護師さんが急ぐように聴診

器をあて「心臓が止まりました」と私は何のことか分からず只唖然と「そんなこと！生と死の境がどこにあったの」と問いかけました。看護師さんは「吸った息が戻らなかったので聴診器あてました」と、朝から立ち続けて数時間が経過していたと思います。私の手は主人から離されました。

寝室は不思議な静けさで、一瞬下界が消え、言葉には言い表せない清らかな崇高さが、寝室を被っていました。「静でした神聖でした」と涙ぐむ看護師さん。この感動は今も胸に焼きついて涙する毎日です。

主人の死は、死をみせない死でした。それはちょうど眠りに入る幼児のように清い世界に生かされてゆく主人でした。今でも忘れられない思い、でいます。主人は私の心の中でいつまでも生き続けているのが実感です。

そして、この清い世界での実感は榛名で今日も主人と一緒に生活できることが最高の幸せなのです。主人と永遠にこの思いが生かされてゆく事を望みながら、皆さまとご一緒にこんなに恵まれた所で生活出来ることを深く感謝しています。

日本は今、最大級の地震と津波の試練をあびています。わからない所、見えない所から起こり、見える世界で太刀打ち出来ない難関を、どのようにして乗り越えてゆくのか。日本中一丸となって必死に生き、助け合ってゆこうとしている真実の気持を、尊んで涙ぐみます。

この真実は犠牲になられた方々の、あまりにも大きな犠牲を、そのままにしておけない表れと思っています。この尊い表れは犠牲になられた、お一人おひとりへの冥福となります。また、残された者の真実を神は見捨てる事はないと信じています。

真実の基は「神のもの」ですから。真実に生きている所に神の力、助けが架けられ、復興への道のりに生かされて、明るい日本に蘇ると信じて祈りを捧げています。



私と指笛

倉木 成伊知

◆指笛を始めたきっかけ

高校生の時に、初めてクラリネットを手にして、一人で自己流で吹いていました。また、大学では、一時期、ジャズバンドに入って、サクソホンとフルートを吹いていました。でも、どれも、まともな練習もせず、長続きもせず、中途半端のままで終わっていました。その後も、楽器を演奏する楽しさは忘れ難いのですが、練習に時間を割く余裕もないまま40代になった頃に、昔、テレビで見た指笛のことを思い出しました。それは、おそらく、「私の秘密」に出演した田村大三先生だったのかと思います。

「そうだ、あの指笛なら、楽器を使いこなすための難しい練習をしなくても、演奏できるのではないか。」と浅はかにも考えた私は、なんとか指笛を覚えたいと、本がないかと探したりしていました。そんな時に、新聞の片隅に、近々、指笛の発表会があるとの記事を見つけたのでした。そして、とうとう1996年の5月か6月ごろ、新宿の安田生命ホールで生の指笛を聴くことができ、すぐに、田村先生のお宅に伺い入門させていただきました。

◆順調に上達

その後、毎週、大泉学園の田村邸に通い、1ヶ月で音が出るようになり、田村大三先生、静海先生、石原泉先生や、諸先輩方のご指導のもと、少しずつ腕（指？）を上げ、発表会にも、1997年から2004年まで、8回連続出場させていただき、舞台度胸も少しずつついてきました。

◆4年間のブランク

ところが、その後、仕事上のトラブルが続き、指笛どころではない状況に陥ってしまい、25の会、練習会、発表会は完全に欠席、指をくわえ音を出すことも全くないまま4年が過ぎてしまいました。2008年になって、ようやく仕事が落ち着いてきたときに、息子が結婚することになりました。そして、その披露宴の席で、長年の夢だった息子との共演の話が持ち上がりました。息子が趣味のピアノで、私が指笛で、「星に願いを」を演奏しようというのです。これがきっかけで、4年ぶりに指をくわえて練習を始めました。当初は、以前のようなまともな音が出ず、これで人前で演奏できるのかと不安になりましたが、車の中や公園などで、少しずつ練習を重ね、披露宴の当日は、なんとか演奏を終え、多くの方から賞賛の拍手をいただくことができました。それから半年後には、娘の結婚式で、カラオケテープの伴奏で「愛さずにはいられない」を演奏し、新郎からも「最高のプレゼントです」とうれしい言葉をもらいました。

◆今後も楽しく指笛を

息子と娘の結婚式がきっかけで指笛が復活し、発表会にも2009年から出演させていただくようになり、指笛演奏の楽しさを取り戻すことができ、とてもうれしく思っています。

その後、大三先生はお亡くなりになり、静海先生、泉先生は遠方に行かれてしまいました

が、近くに仲間を見つけたりしながら、なんとか練習の場を確保して、今後も楽しく指笛を続けていきたいと思っています。

事務局からのお知らせ

一 発表会に向けた練習会及び25の会（役員会を含む）の日程

1. 発表会までの流れ

6/15(水)	7/20(水)	8/10(水)	9/10(土)
総合練習① 伴奏録音可	総合練習② 伴奏録音可	総合練習③ 伴奏録音可	発表会

2. 日程の詳細（予定）

第1回目 日時 6月15日（水）13：00～17：00（時間延長なし！）

会場 練馬区立勤労福祉会館

泉先生の総合指導及び個別指導があります。

発表曲が決まっている方は伴奏テープの録音ができます。

第2回目 日時 7月20日（水）13：00～21：00

会場 練馬区総合教育センター

（練、高野台2-25-1 TEL03-3904-4881）

西武線の練馬高野台駅（大泉学園駅の2つ手前）下車・進行方向右側（北口）

徒歩約15分、タクシーだと一区间

泉先生の総合指導及び個別指導があります。テープ録音は18：30頃まで

第3回目 日時 8月10日（水）13：00～17：00（時間延長なし！）

かいじょう！ 注意！ 練馬文化センター（本番と同じ） リハーサル室

泉先生の総合指導及び個別指導があります。発表曲の伴奏テープの録音可

3. レッスン料 個人レッスンを受ける方は、一回2,000円をご負担ください（先生へのお礼と交通費に充当させていただきます。）。

二 一言集の原稿のお願い（出演される方へ）

大三先生の思い出、演奏曲についてなど自由です。200字以内のコメントをお寄せください。発表会当日プログラムと一緒に配布いたします。

